

自殺総合対策の推進

資料3-2

東京都自殺総合対策計画の改定

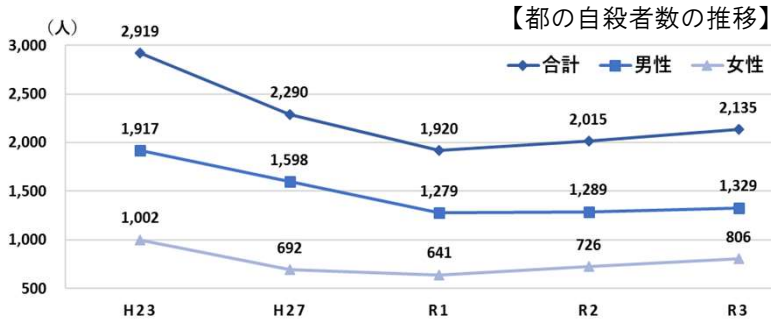
令和5年3月に「東京都自殺総合対策計画（第二次）」を公表

- 計画期間 令和5年度から令和9年度までの5年間
- 計画目標 令和8年までに自殺者数及び自殺死亡率（人口10万人あたりの自殺者数）を平成27年と比較して30%以上減少

都	H27	R3	R8目標値
自殺死亡率	17.4	15.9	12.2 以下
自殺者数（人）	2,290	2,135	1,600 以下

都の自殺の現状

- 自殺者数は減少傾向であったが、令和2年、3年と前年と比較して増加
- コロナ禍以降、女性や若年層を中心に増加



計画改定のポイント

都の自殺の現状やコロナ禍以降の状況、国の自殺総合対策大綱（令和4年10月公表）を踏まえて計画を改定

- 幅広い分野で生きることの阻害要因を減らし、生きることの促進要因を増やす取組を行い、**生きることの包括的支援としての自殺対策を強化**
＜施策数：前期計画・79施策 → 現行計画・100施策＞
- 重点項目（6項目）
 - ① 自殺未遂者支援
 - ② 悩みを抱える人を早期に適切な支援窓口につなげる取組の強化
 - ③ 働き盛りの男性の自殺防止
 - ④ 女性への支援の更なる充実
 - ⑤ 児童・生徒・学生をはじめとする若年層の自殺防止
 - ⑥ 自死遺族支援

これまでの主な取組

- **相談体制の充実**
自殺相談ダイヤル、SNS自殺相談
- **広域的な普及啓発**
自殺対策強化月間等における普及啓発、検索連動型広告、ゲートキーパーの周知
- **若年層、女性、職場における対策の推進**
小中高生向けポケットメモ、女性向けリーフレットの作成・配布、職域向け講演会の実施
- **自殺未遂者支援**
自殺未遂者対応・支援研修、地域の支援機関と救急医療機関等との連携強化

令和5年度 新規・拡充事業

- 新規 自死遺族のための相談窓口の設置** <予算案：17百万円>
様々な問題に直面する自死遺族を自死発生直後から支援するための相談窓口を設置
 - 新規 大学等における自殺対策推進の支援** <予算案：4百万円>
大学等における講義等で活用可能な動画コンテンツを作成
 - 拡充 デジタル技術の活用による施策の強化**
 - 東京都自殺相談ダイヤルの相談システムの刷新等 <予算案：109百万円>
 - AIチャットボットの導入 <予算案：6百万円>
 - 検索連動型広告の充実 <予算案：10百万円>
- 自殺のリスク要因を抱える方を早期に適切な相談窓口につなげる取組の強化 4

第2章 都の自殺の現状(特徴)

「東京都自殺総合対策計画～こころといのちのサポートプラン～(第2次)」 抜粋

本計画では、主に警察庁の「自殺統計」と厚生労働省の「人口動態統計」の2種類を用いています。

警察庁の「自殺統計」

◆日本における外国人の取扱い

日本における日本人及び日本における外国人を対象としています。

◆計上時点

発見地に計上しています。

◆調査時点

捜査等により、自殺であると判明した時点で計上しています。

厚生労働省の「人口動態統計」

◆日本における外国人の取扱い

日本における日本人のみを対象としています。

◆計上時点

住所地に計上しています。

◆調査時点

自殺、他殺あるいは事故死のいずれか不明のときは原因不明の死亡等で処理しており、後日原因が判明し、死亡診断書等の作成者から自殺の旨訂正報告があった場合には、遡って自殺に計上しています。

<統計データの留意点>

◆「自殺死亡率」とは、人口10万人当たりの自殺による死亡数です。

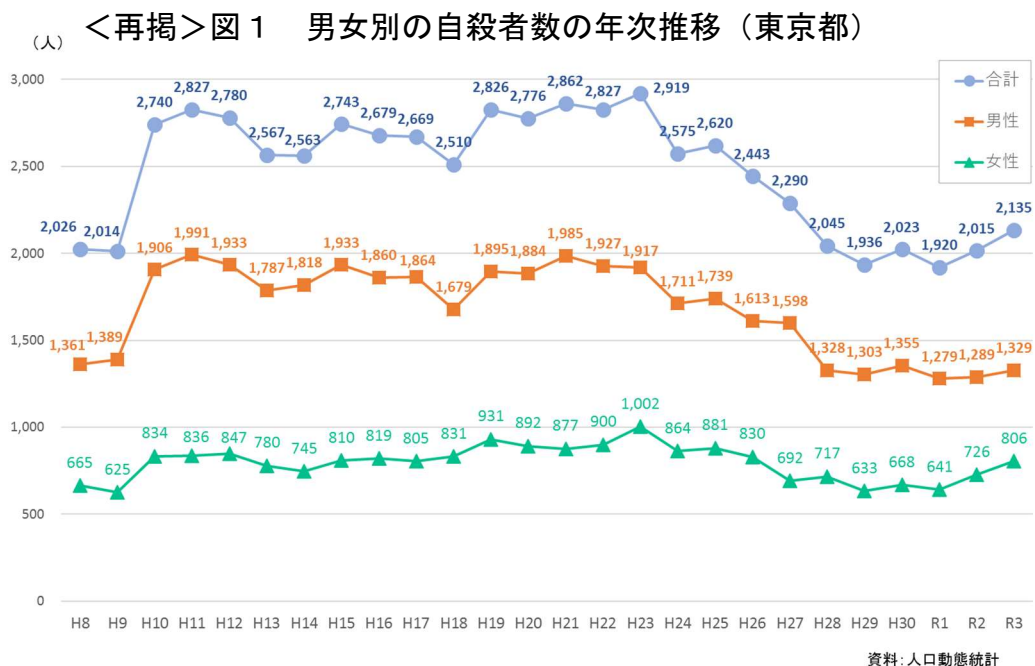
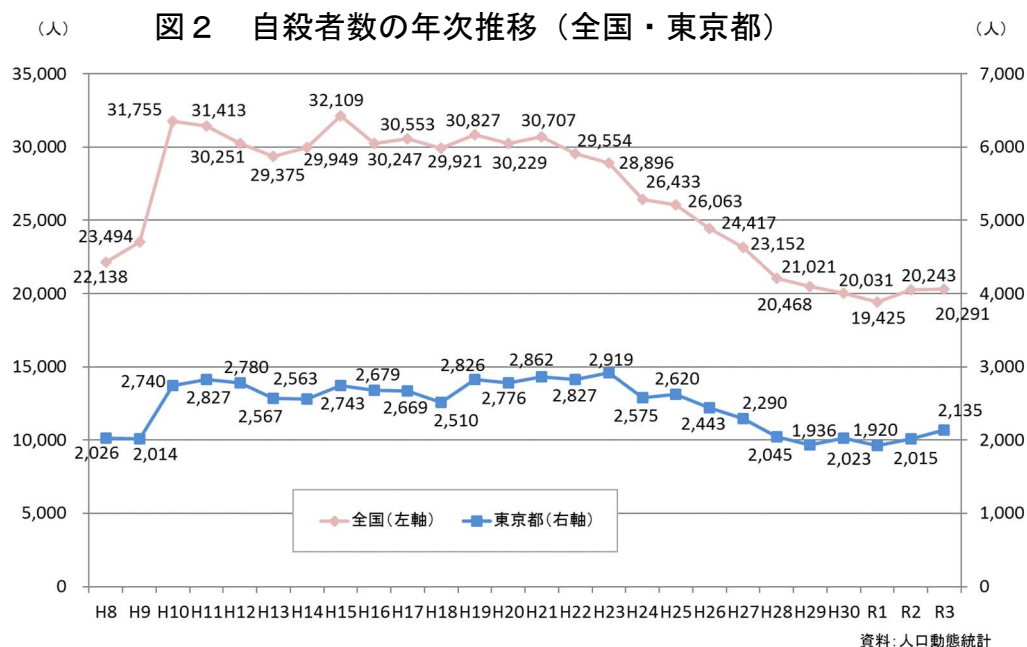
◆「%」は、それぞれの割合を小数点第2位で四捨五入して算出しているため、すべての割合を合計しても100%にならないことがあります。

(1) 自殺者数の推移

- 全国の自殺による死亡者数は、平成22年以降減少傾向でしたが、令和2年は11年ぶりに増加に転じ、令和3年は20,291人となりました。
- 都の自殺者数は、平成10年から平成23年までの14年間は、2,000人台後半で推移し、平成23年の2,919人をピークに減少傾向にありましたが、令和2年以降は、令和2年は2,015人、令和3年は2,135人と、前年と比較して増加しています。

令和2年以降の自殺者数の増加要因として、新型コロナウイルス感染症の感染拡大の影響等で自殺の要因となり得る様々な問題が悪化したことが指摘されています。

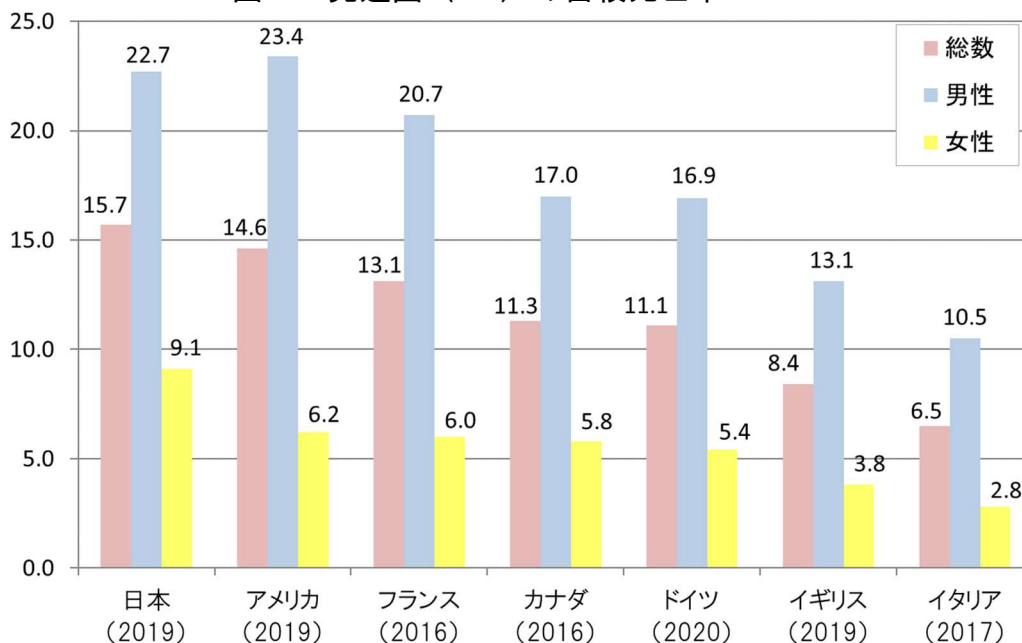
- 都の自殺者数の約3分の2を男性が、約3分の1を女性が占めており、この傾向は大きく変化していません。



(2) 自殺死亡率の推移

- 世界保健機関（WHO）の統計を基に、厚生労働省が取りまとめた先進国（G7）の自殺死亡率をみると、令和元年の日本の自殺死亡率は15.7と7か国の中で最も高い状況です。

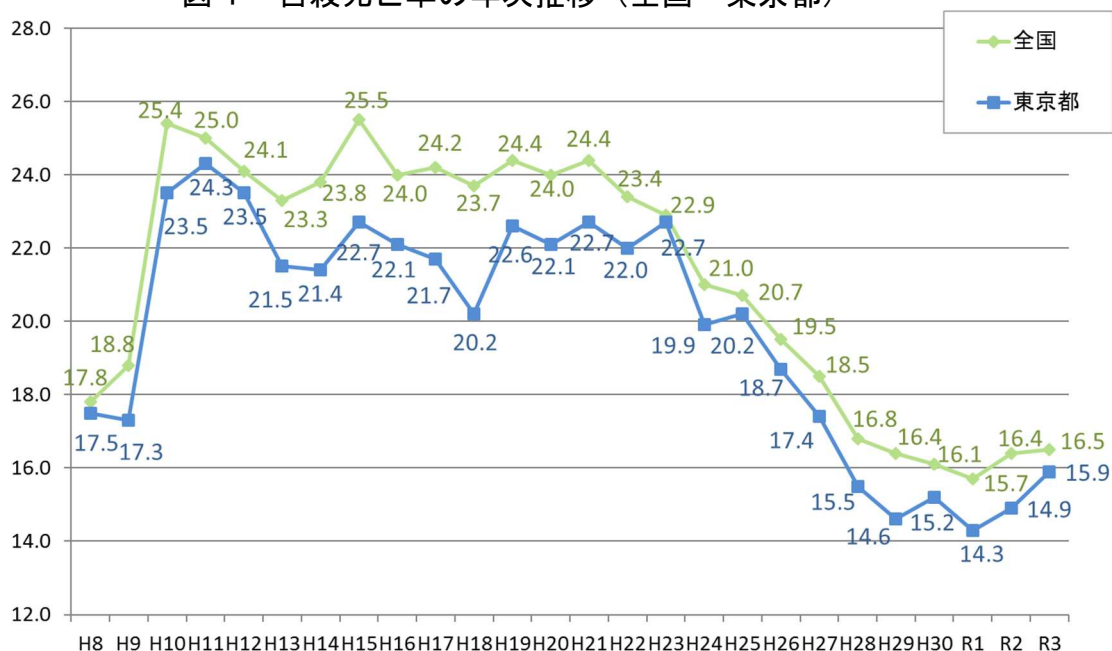
図3 先進国（G7）の自殺死亡率



資料：厚生労働省「令和4年版自殺対策白書」に基づき都作成

- 都の自殺死亡率は、平成23年以降、概ね減少傾向にありましたが、令和2年、令和3年と増加に転じています。なお、都の自殺死亡率は、全国の自殺死亡率と比較すると、低い状況にあります。

図4 自殺死亡率の年次推移（全国・東京都）

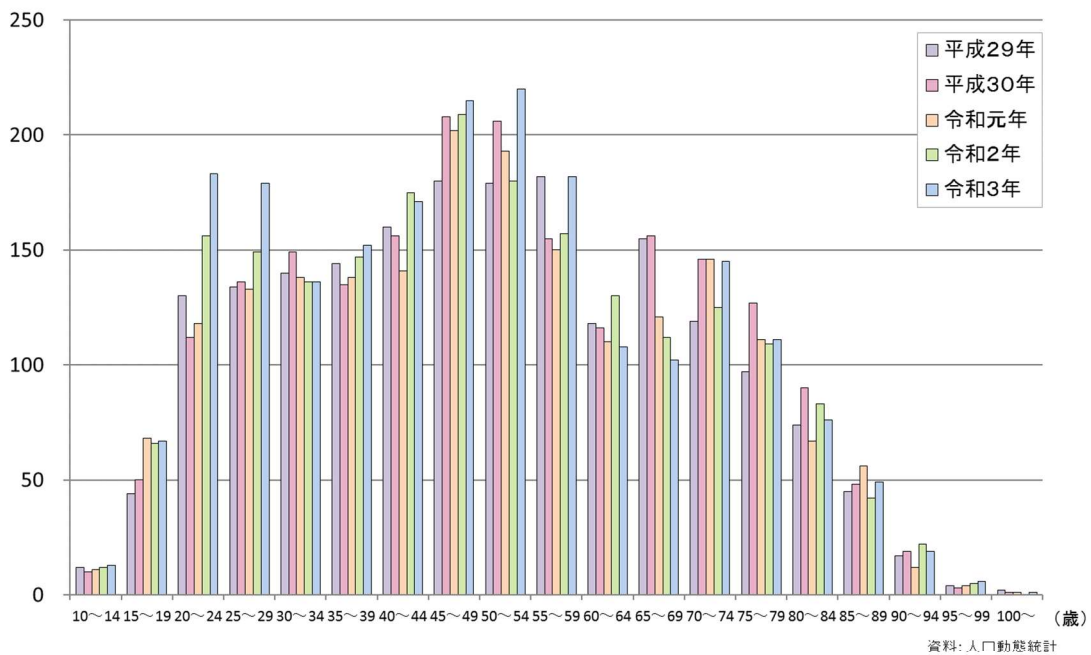


資料：人口動態統計

(3) 年齢階級別の自殺者数の推移

- 平成29年以降、都における年齢階級別の自殺者数は、10歳代後半から増加し、20歳代前半から70歳代前半までは100人以上で推移しており、特に40歳代後半から50歳代前半が多くなっています。また、20歳代の自殺者数は、近年増加傾向にあります。
- 男女別にみると、男性は、40歳代後半になると自殺者数が増加し、50歳代も高い水準となっています。
- 女性は、40歳代及び50歳代前半で高い水準が続いていましたが、令和3年は多くの年代で増加しており、特に20歳代が大幅に増加しています。

(人) 図5 年齢階級別自殺者数の年次推移 (東京都・総数)



(人) 図6 年齢階級別自殺者数の年次推移 (東京都・男性)

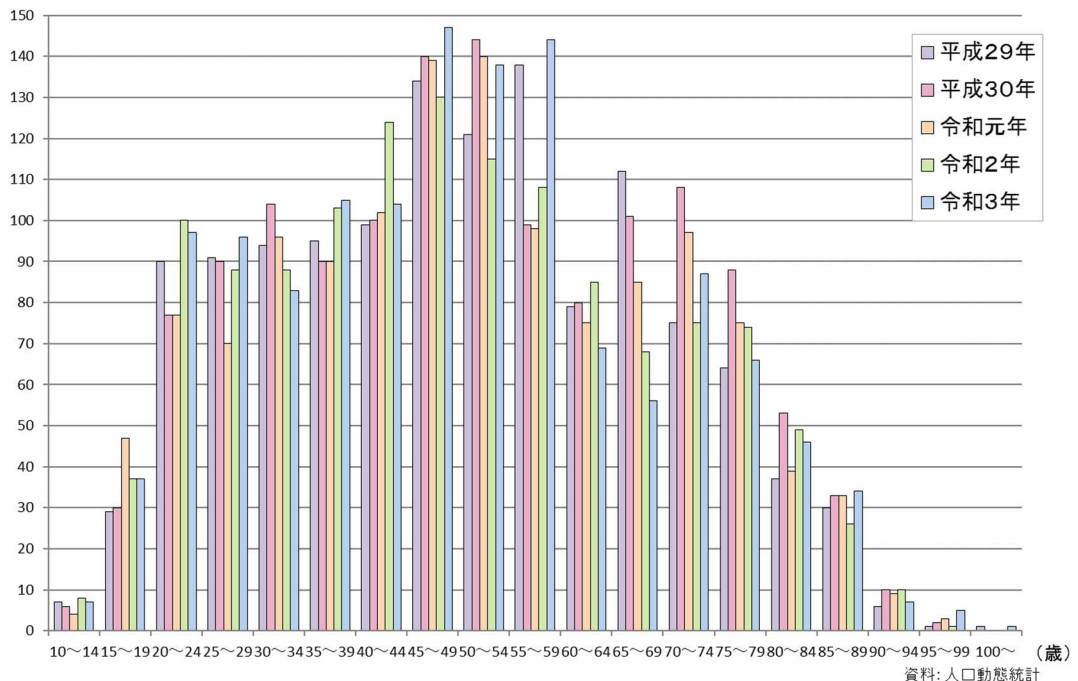
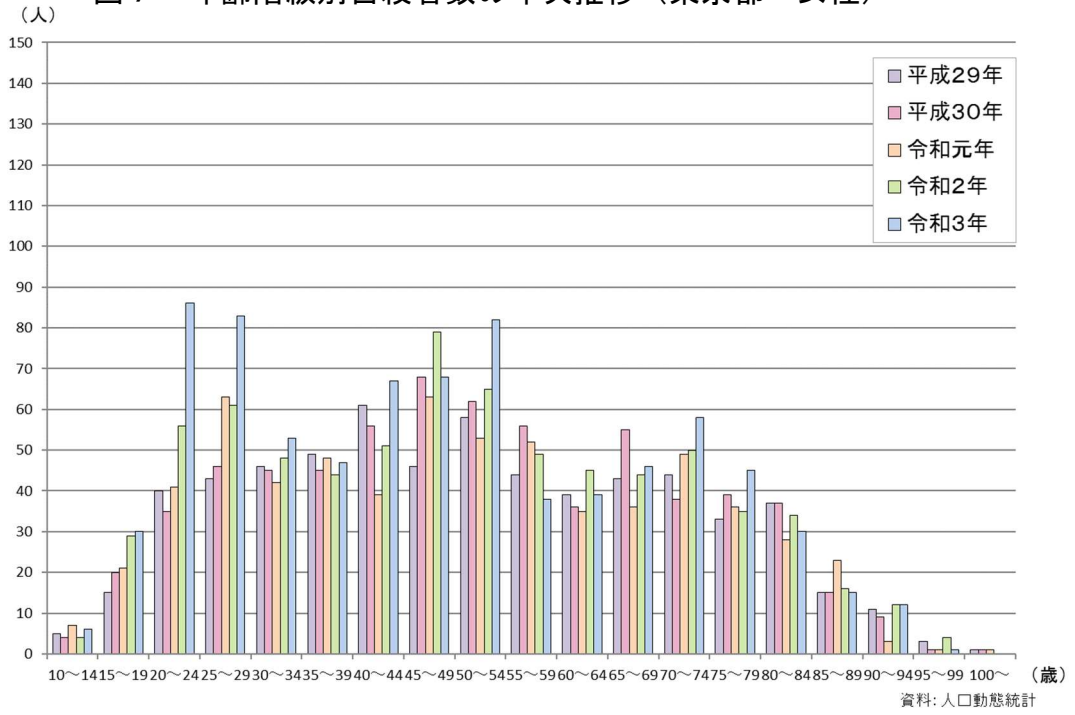


図7 年齢階級別自殺者数の年次推移（東京都・女性）



(4) 年齢階級別の自殺死亡率の推移

- 平成29年以降の都における年齢階級別の自殺死亡率をみると、20歳代以降は概ね15.0～20.0の間で推移していますが、近年は10歳代後半から20歳代前半が増加傾向にあります。
- 男性の自殺死亡率は、年齢階級によって幅があります。また、同じ年齢階級の中でも、年によって増減があります。
- 女性の自殺死亡率は、多くの年齢階級において令和2年、令和3年と増加しています。

図8 年齢階級別の自殺死亡率の推移（東京都・総数）

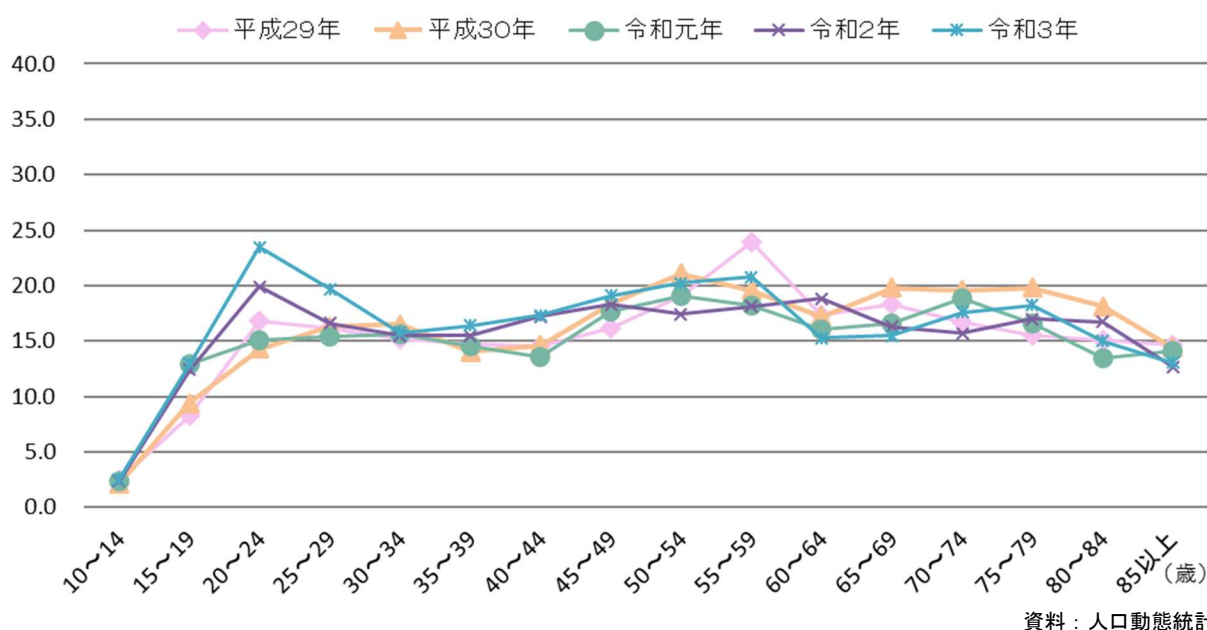


図9 年齢階級別の自殺死亡率の推移（東京都・男性）

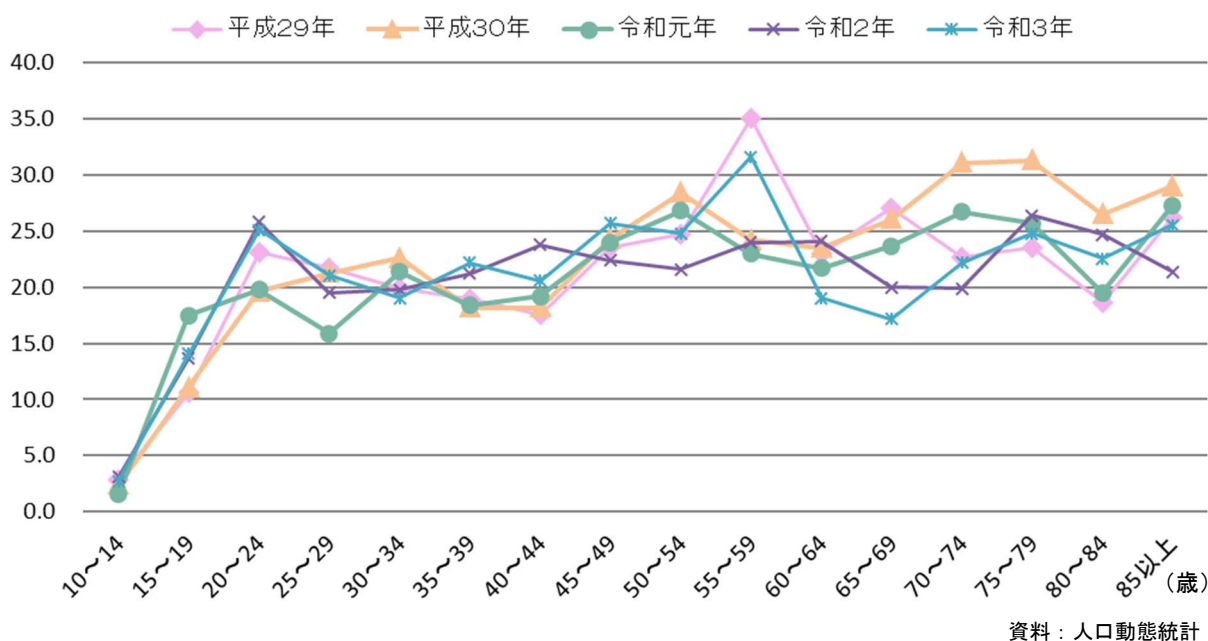
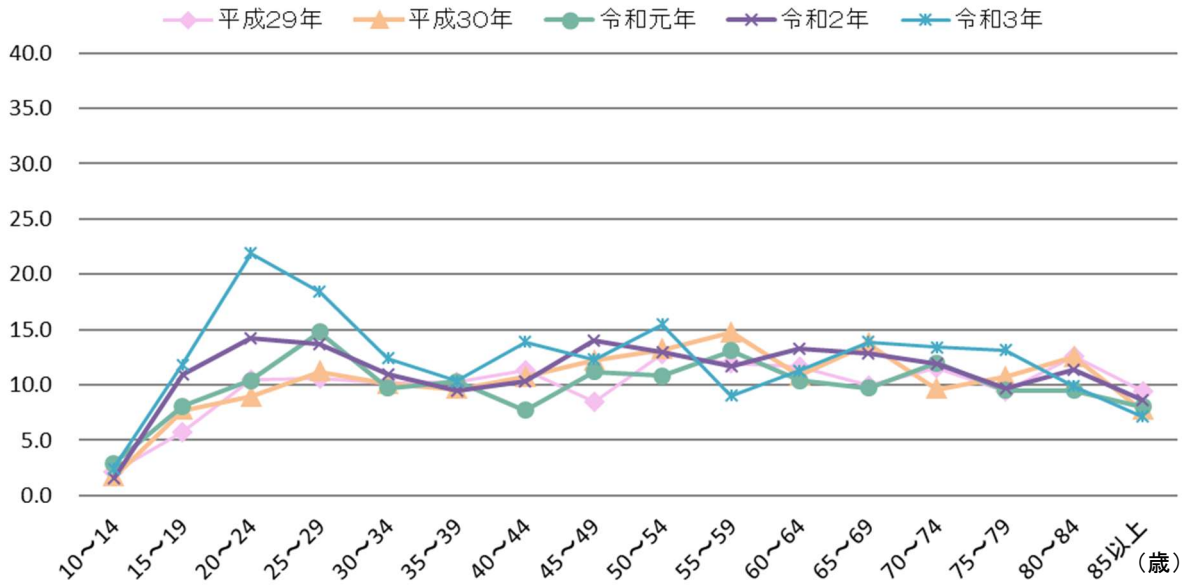


図10 年齢階級別の自殺死亡率の推移（東京都・女性）



資料：人口動態統計

(5) 自殺者の年齢構成

- 平成29年以降の自殺者の年齢構成をみると、全国では40歳代、50歳代が大きな割合を占めており、この傾向は都においても同様です。
- 一方、令和3年における全国の30歳代以下の自殺者の割合は28.4%であるのに対して、都における同割合は34.2%と、全国よりも高くなっており、その割合は年々増加傾向にあります。

図11 自殺者の年齢構成（全国）

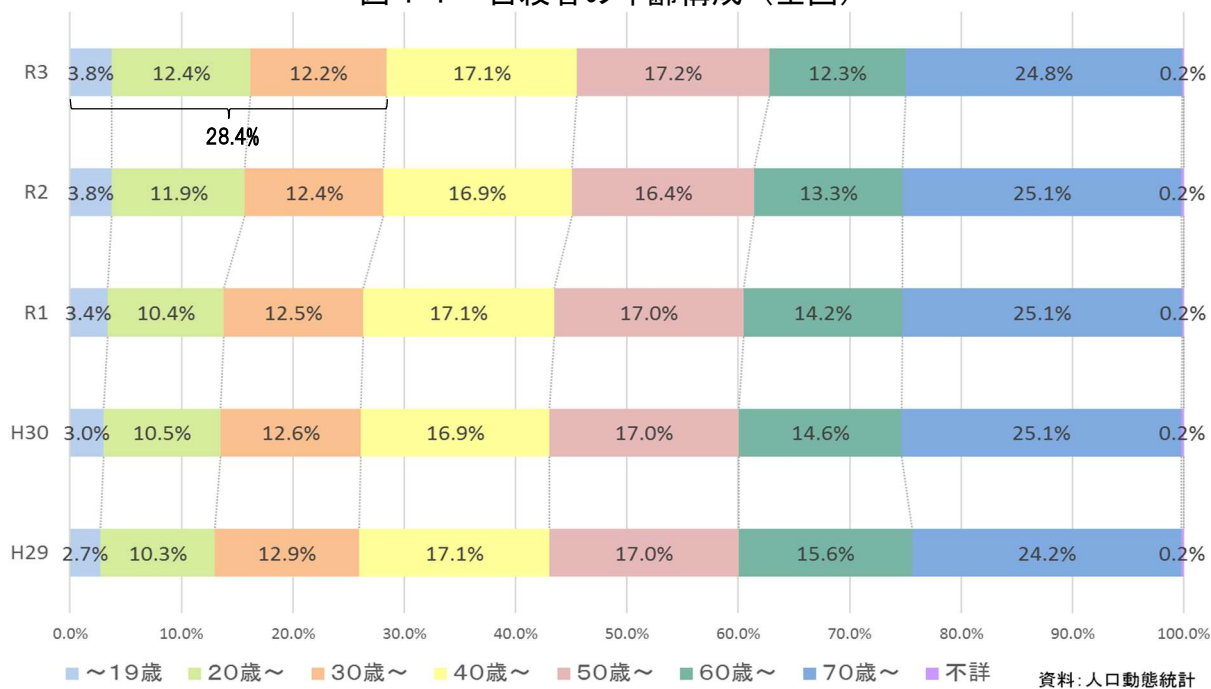
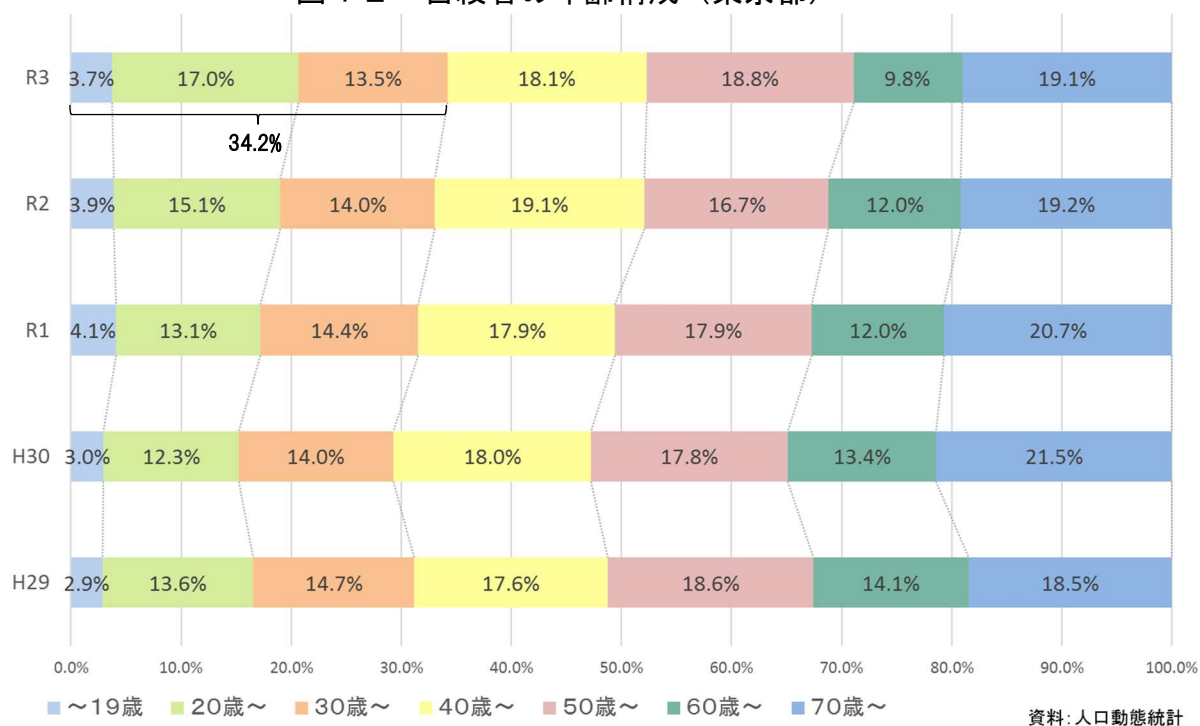


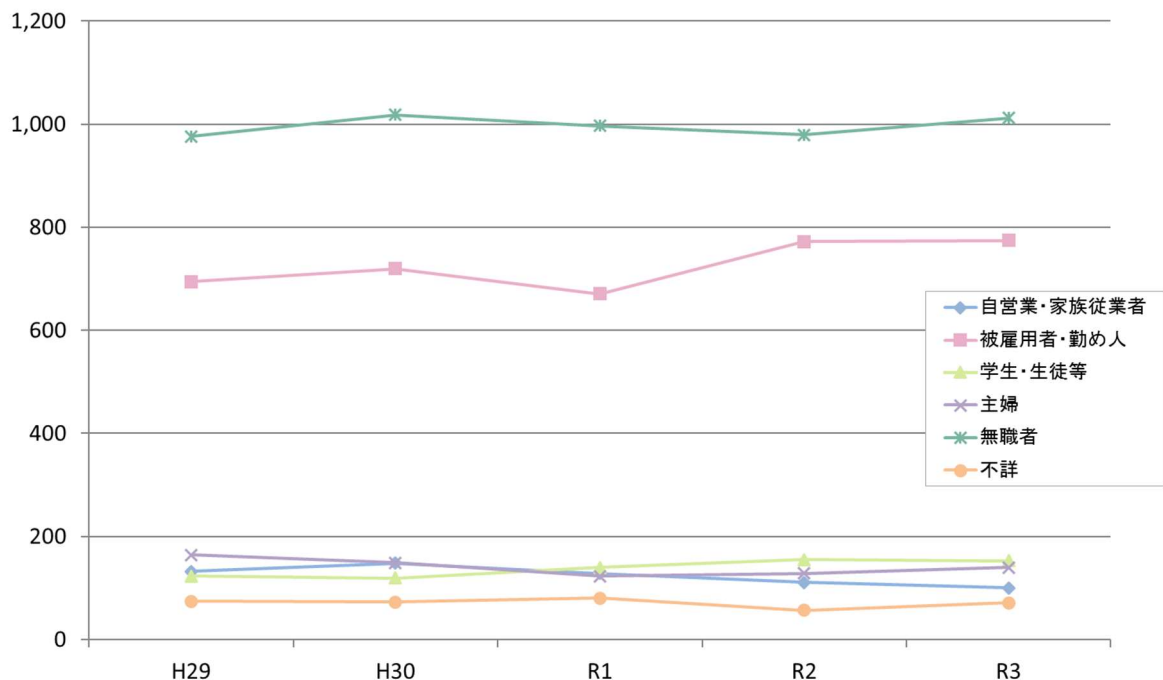
図12 自殺者の年齢構成（東京都）



(6) 職業別の自殺者数の推移

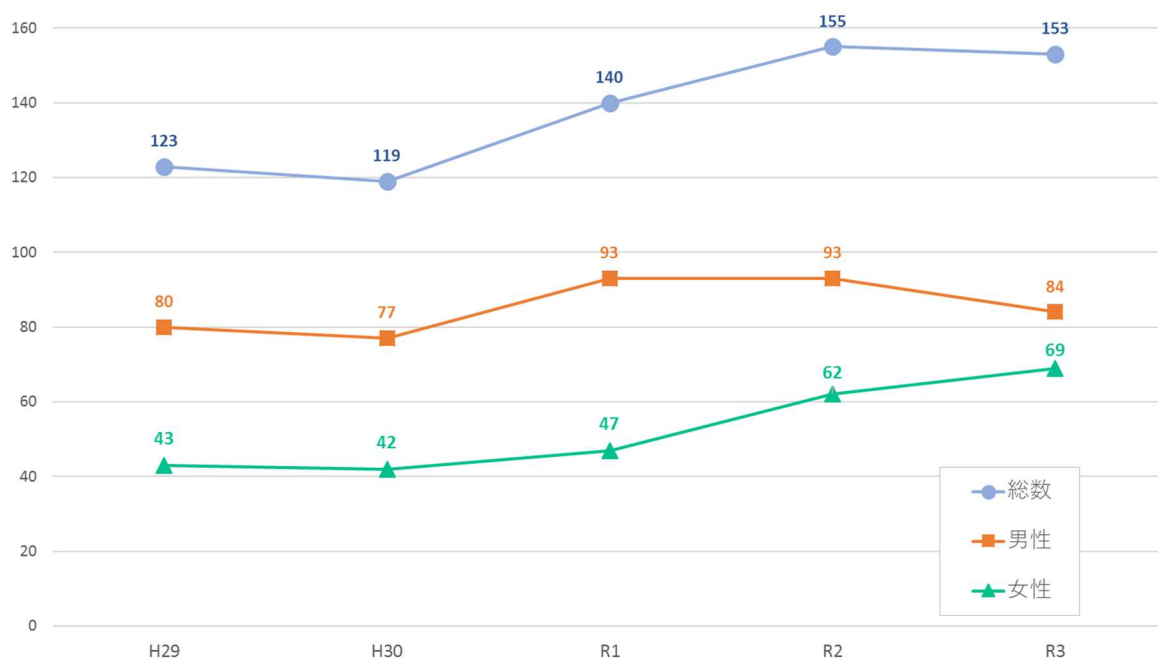
- 平成29年以降の都の職業別の自殺者数の推移をみると、「無職者」が最も多く、次いで、「被雇用者・勤め人」が多くなっている状況が続いています。
- 令和2年は「被雇用者・勤め人」の自殺者数が大きく増加しました。
- 児童・生徒・学生の自殺者数は増加傾向にあり、令和3年における児童・生徒の自殺者数は61人と、ここ5年で約1.6倍の水準となっています。また、大学生、大学院生の自殺者数は高水準で推移しています。

(人) 図13 職業別の自殺者数の推移（東京都）



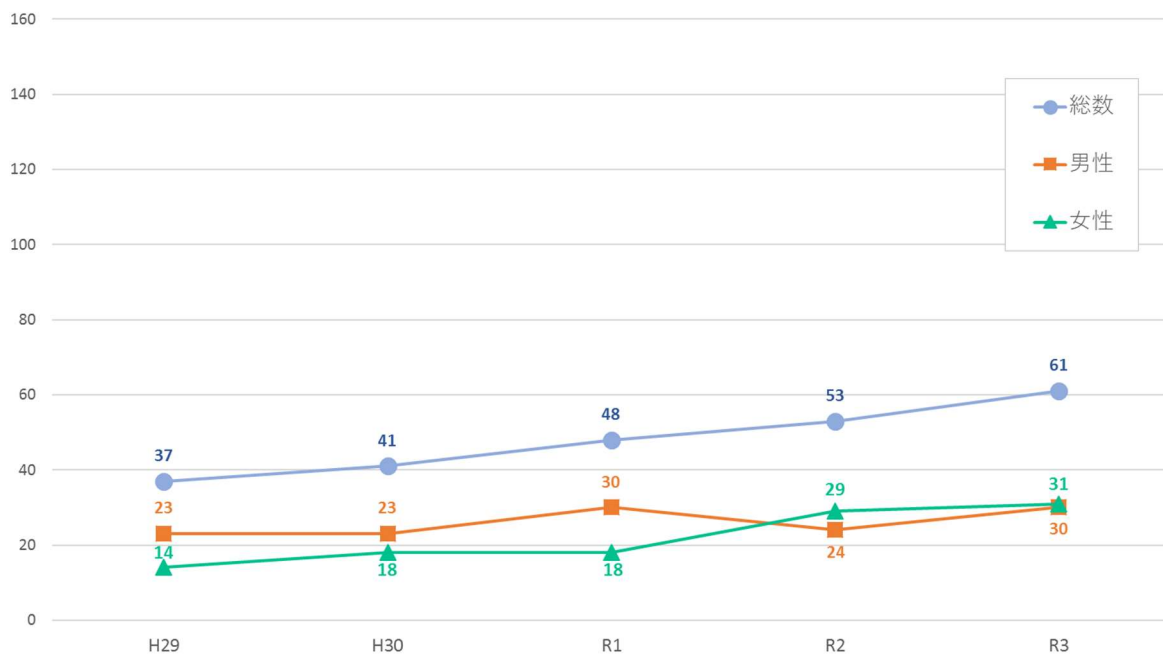
資料：「警察庁『自殺統計』より厚生労働省自殺対策推進室作成」資料に基づき都作成

(人) 図14 児童・生徒・学生の自殺者数の推移（東京都）



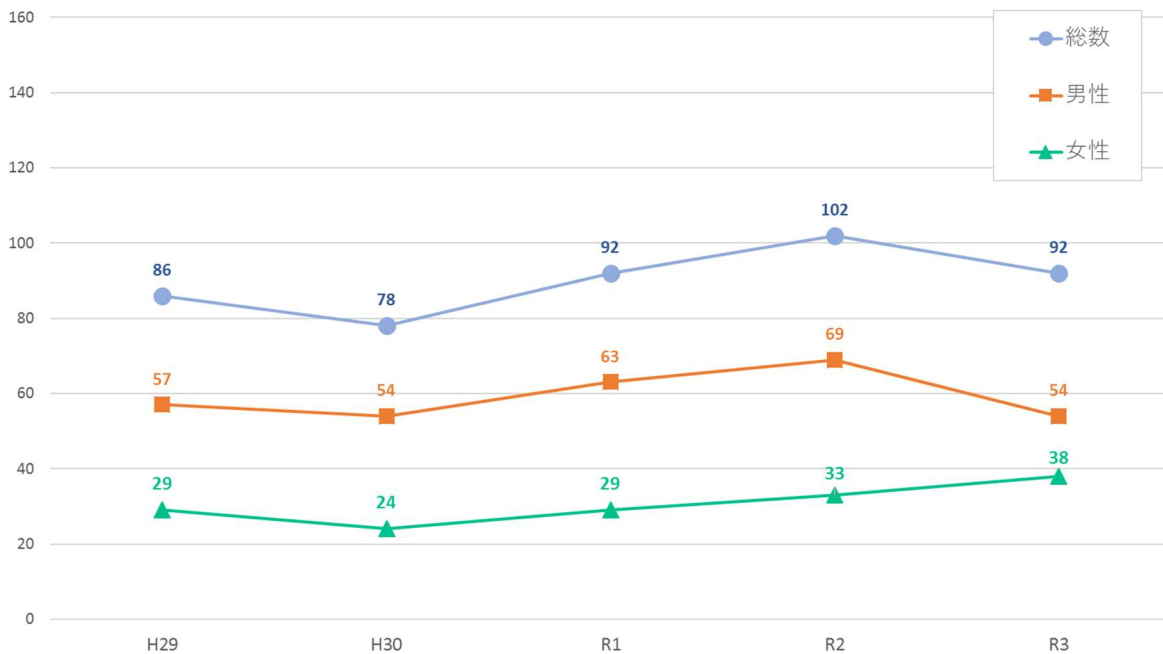
資料：「警察庁『自殺統計』より厚生労働省自殺対策推進室作成」資料に基づき都作成

(人) 図15 児童・生徒の自殺者数の推移（東京都）



資料：「警察庁『自殺統計』より厚生労働省自殺対策推進室作成」資料に基づき都作成

(人) 図16 学生（大学生、専修学校生等）の自殺者数の推移（東京都）

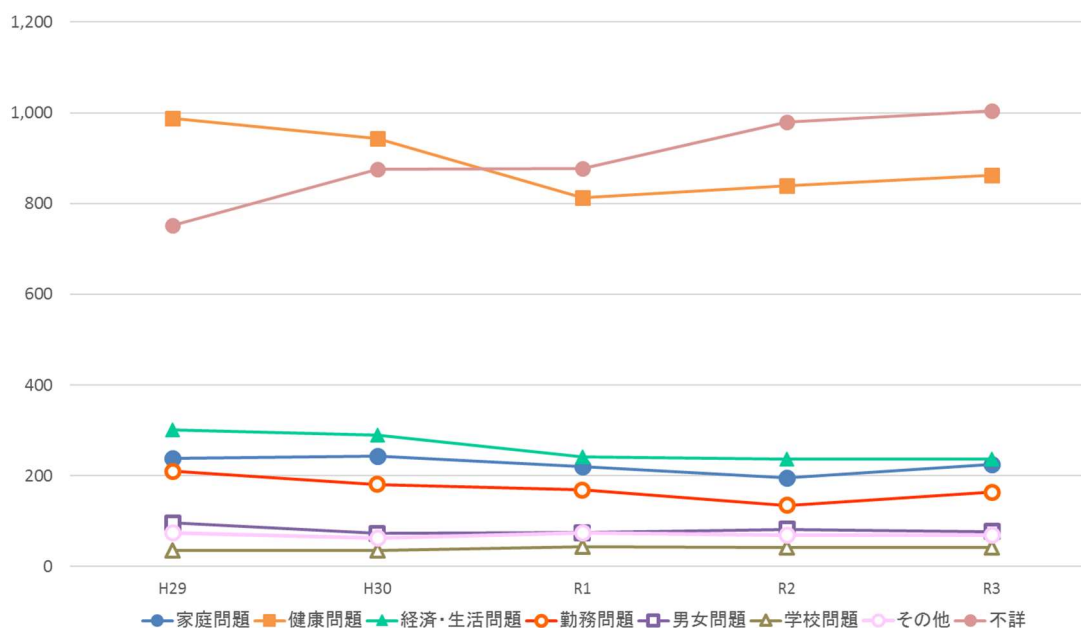


資料：「警察庁『自殺統計』より厚生労働省自殺対策推進室作成」資料に基づき都作成

(7) 原因・動機別の自殺者数の推移

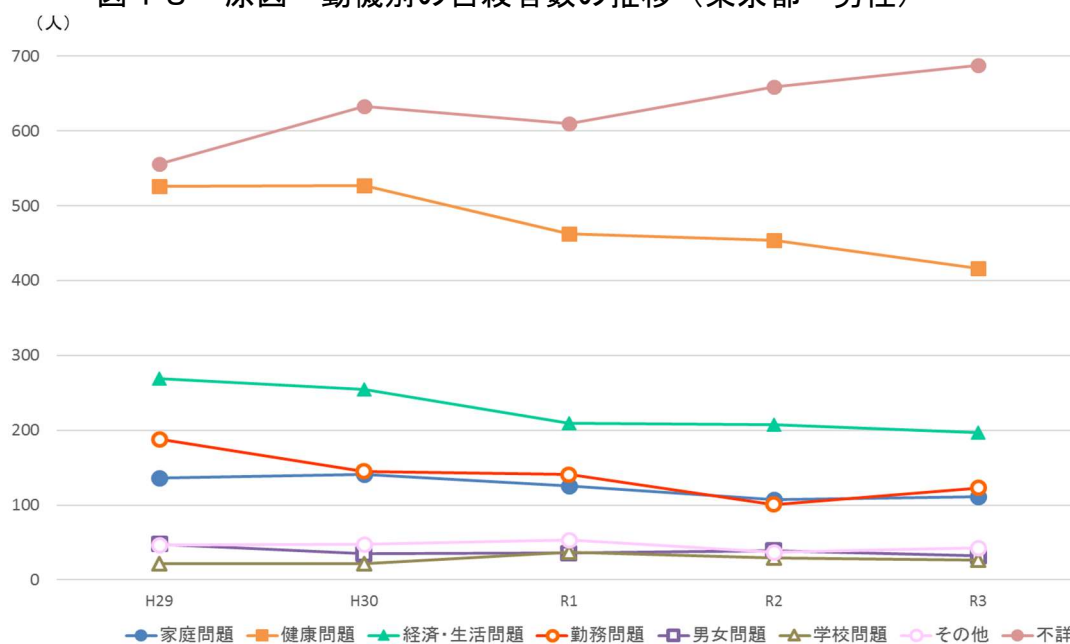
- 平成29年以降の原因・動機別の自殺者数の推移をみると、「健康問題」が最も多く、次いで「経済・生活問題」となっています。「健康問題」については、平成29年以降減少傾向にあったものの、令和2年、令和3年と増加しています。また、「不詳」が増加傾向にあります。
- 男性は、「健康問題」「経済・生活問題」が減少傾向にあります。
- 女性は、「健康問題」が令和2年以降増加しています。また、「健康問題」に次いで「家庭問題」が多くなっています。

(人) 図17 原因・動機別の自殺者数の推移（東京都・総数）



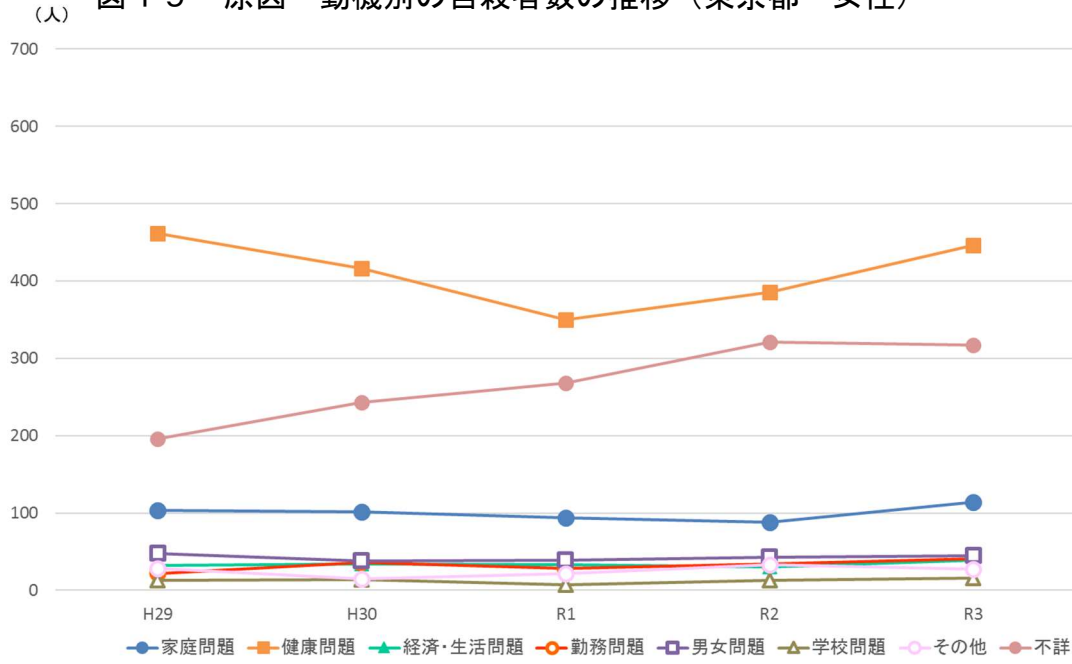
資料:「警察庁『自殺統計』より厚生労働省自殺対策推進室作成」資料に基づき都作成

図18 原因・動機別の自殺者数の推移（東京都・男性）



資料:「警察庁『自殺統計』より厚生労働省自殺対策推進室作成」資料に基づき都作成

図19 原因・動機別の自殺者数の推移（東京都・女性）



資料:「警察庁『自殺統計』より厚生労働省自殺対策推進室作成」資料に基づき都作成

(8) 死因順位別にみた年齢階級別の死亡数・構成割合

- 平成29年から令和3年までの死因順位別にみた年齢階級別の死亡数・構成割合をみると、すべての年で10歳代、20歳代及び30歳代の年代は「自殺」が第1位となっており、40歳代では第2位となっています。

表1 死因順位別にみた年齢階級別の死亡数・構成割合（令和3年、東京都）

		10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代	
第1位		自殺		自殺		自殺		悪性新生物<腫瘍>		悪性新生物<腫瘍>		悪性新生物<腫瘍>	
人数	割合	80	47.6%	362	66.2%	288	35.2%	697	30.1%	2,044	37.1%	4,357	43.7%
第2位		悪性新生物<腫瘍>		悪性新生物<腫瘍>		悪性新生物<腫瘍>		自殺		心疾患		心疾患	
人数	割合	22	13.1%	30	5.5%	152	18.6%	386	16.6%	662	12.0%	1,245	12.5%
第3位		不慮の事故		不慮の事故		脳血管疾患		心疾患		脳血管疾患		脳血管疾患	
人数	割合	11	6.5%	29	5.3%	49	6.0%	229	9.9%	421	7.6%	641	6.4%
第4位		先天奇形、変形及び染色体異常		心疾患		不慮の事故		脳血管疾患		自殺		肝疾患	
人数	割合	6	3.6%	13	2.4%	47	5.7%	206	8.9%	402	7.3%	430	4.3%
第5位		心疾患		糖尿病		心疾患		肝疾患		肝疾患		自殺	
人数	割合	5	3.0%	8	1.5%	44	5.4%	173	7.5%	349	6.3%	210	2.1%

出典：人口動態統計

表2 死因順位別にみた年齢階級別の死亡数・構成割合（令和2年、東京都）

		10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代	
第1位		自殺		自殺		自殺		悪性新生物<腫瘍>		悪性新生物<腫瘍>		悪性新生物<腫瘍>	
人数	割合	78	49.7%	305	60.5%	283	35.9%	699	29.4%	2,073	39.4%	4,664	45.4%
第2位		悪性新生物<腫瘍>		悪性新生物<腫瘍>		悪性新生物<腫瘍>		自殺		心疾患		心疾患	
人数	割合	17	10.8%	40	7.9%	166	21.1%	384	16.2%	605	11.5%	1,261	12.3%
第3位		不慮の事故		不慮の事故		心疾患		心疾患		脳血管疾患		脳血管疾患	
人数	割合	15	9.6%	37	7.3%	55	7.0%	253	10.7%	411	7.8%	689	6.7%
第4位		心疾患※		心疾患		不慮の事故		脳血管疾患		肝疾患		肝疾患	
人数	割合	6	3.8%	12	2.4%	53	6.7%	230	9.7%	343	6.5%	413	4.0%
第5位		先天奇形、変形及び染色体異常※		先天奇形、変形及び染色体異常		脳血管疾患		肝疾患		自殺		不慮の事故	
人数	割合	6	3.8%	6	1.2%	41	5.2%	167	7.0%	337	6.4%	266	2.6%

出典：人口動態統計

本頁及び次頁に掲載のある表において、死因の名称の右上に※が付されているものは、死亡数が同数であり、順位も同一である。

表3 死因順位別にみた年齢階級別の死亡数・構成割合（令和元年、東京都）

		10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代	
第1位		自殺		自殺		自殺		悪性新生物<腫瘍>		悪性新生物<腫瘍>		悪性新生物<腫瘍>	
人数	割合	79	52.0%	251	58.8%	276	33.5%	715	31.5%	2,050	40.0%	4,979	46.2%
第2位		悪性新生物<腫瘍>		不慮の事故		悪性新生物<腫瘍>		自殺		心疾患		心疾患	
人数	割合	24	15.8%	46	10.8%	180	21.8%	343	15.1%	603	11.8%	1,330	12.3%
第3位		不慮の事故		悪性新生物<腫瘍>		不慮の事故		心疾患		脳血管疾患		脳血管疾患	
人数	割合	10	6.6%	22	5.2%	55	6.7%	233	10.3%	430	8.4%	682	6.3%
第4位		先天奇形、変形及び染色体異常		心疾患		心疾患		脳血管疾患		自殺		肝疾患	
人数	割合	6	3.9%	13	3.0%	53	6.4%	226	9.9%	343	6.7%	391	3.6%
第5位		心疾患		先天奇形、変形及び染色体異常		脳血管疾患		肝疾患		肝疾患		肺炎	
人数	割合	5	3.3%	6	1.4%	39	4.7%	141	6.2%	313	6.1%	311	2.9%

出典：人口動態統計

表4 死因順位別にみた年齢階級別の死亡数・構成割合（平成30年、東京都）

		10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代	
第1位		自殺		自殺		自殺		悪性新生物<腫瘍>		悪性新生物<腫瘍>		悪性新生物<腫瘍>	
人数	割合	60	40.3%	248	52.2%	284	33.4%	780	32.2%	2,093	40.5%	5,287	47.1%
第2位		悪性新生物<腫瘍>		悪性新生物<腫瘍>		悪性新生物<腫瘍>		自殺		心疾患		心疾患	
人数	割合	20	13.4%	47	9.9%	181	21.3%	364	15.0%	531	10.3%	1,342	12.0%
第3位		不慮の事故		不慮の事故		脳血管疾患		心疾患		脳血管疾患		脳血管疾患	
人数	割合	20	13.4%	39	8.2%	55	6.5%	233	9.6%	392	7.6%	692	6.2%
第4位		先天奇形、変形及び染色体異常		心疾患		心疾患		脳血管疾患		自殺		肝疾患	
人数	割合	8	5.4%	21	4.4%	52	6.1%	219	9.0%	361	7.0%	380	3.4%
第5位		心疾患		脳血管疾患		不慮の事故		肝疾患		肝疾患		不慮の事故	
人数	割合	6	4.0%	7	1.5%	52	6.1%	148	6.1%	320	6.2%	305	2.7%

出典：人口動態統計

表5 死因順位別にみた年齢階級別の死亡数・構成割合（平成29年、東京都）

		10歳代		20歳代		30歳代		40歳代		50歳代		60歳代	
第1位		自殺		自殺		自殺		悪性新生物<腫瘍>		悪性新生物<腫瘍>		悪性新生物<腫瘍>	
人数	割合	56	41.2%	264	57.0%	284	34.7%	855	34.3%	2,046	41.9%	5,759	47.5%
第2位		悪性新生物<腫瘍>		不慮の事故		悪性新生物<腫瘍>		自殺		心疾患		心疾患	
人数	割合	11	8.1%	45	9.7%	181	22.1%	340	13.6%	513	10.5%	1,465	12.1%
第3位		先天奇形、変形及び染色体異常		悪性新生物<腫瘍>		心疾患		心疾患		自殺		脳血管疾患	
人数	割合	10	7.4%	34	7.3%	52	6.4%	259	10.4%	361	7.4%	840	6.9%
第4位		不慮の事故		心疾患		不慮の事故		脳血管疾患		脳血管疾患		肝疾患	
人数	割合	10	7.4%	21	4.5%	44	5.4%	224	9.0%	360	7.4%	448	3.7%
第5位		心疾患		先天奇形、変形及び染色体異常		脳血管疾患		肝疾患		肝疾患		肺炎	
人数	割合	9	6.6%	11	2.4%	43	5.3%	141	5.7%	285	5.8%	323	2.7%

出典：人口動態統計

(9) 自殺者の自殺未遂歴の状況（自殺未遂歴の有無の男女比較）

- 平成29年以降の自殺者の自殺未遂歴の状況は大きく変化していません。
- 男性の自殺者のうち、未遂歴がある割合は約1割ですが、年々増加傾向にあります。
- 一方、女性の自殺者のうち、未遂歴がある割合は約3割で、男女の差が大きくなっています。

図20 自殺者の自殺未遂歴の有無（東京都、総数）

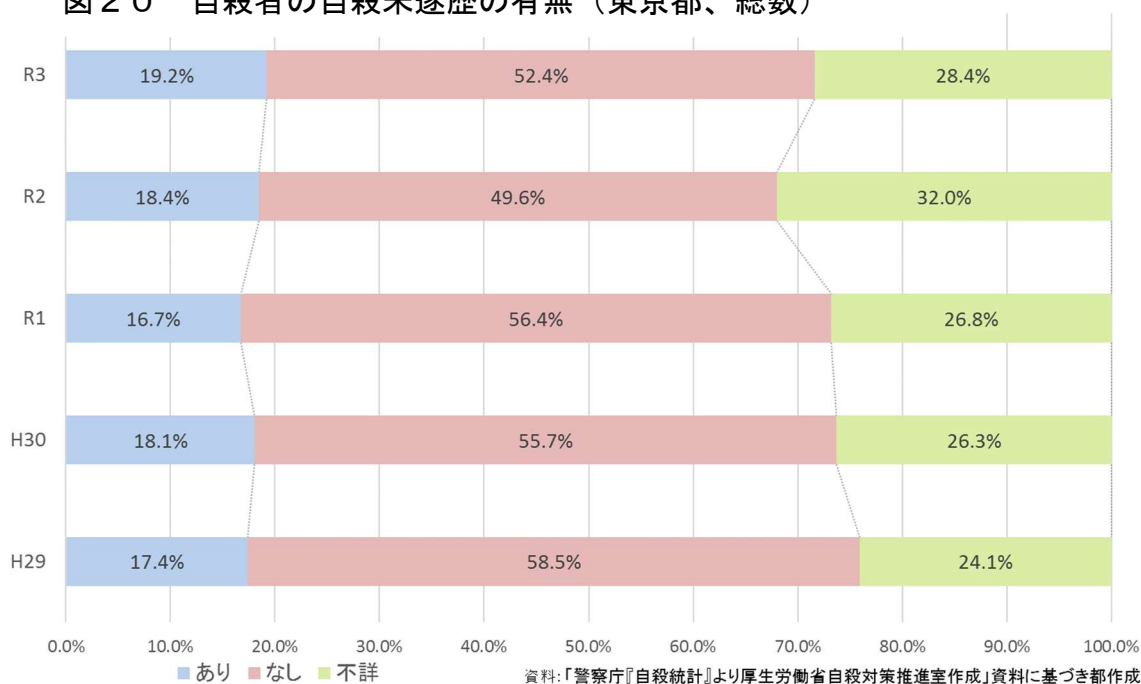


図21 自殺者の自殺未遂歴の有無（東京都、男性）

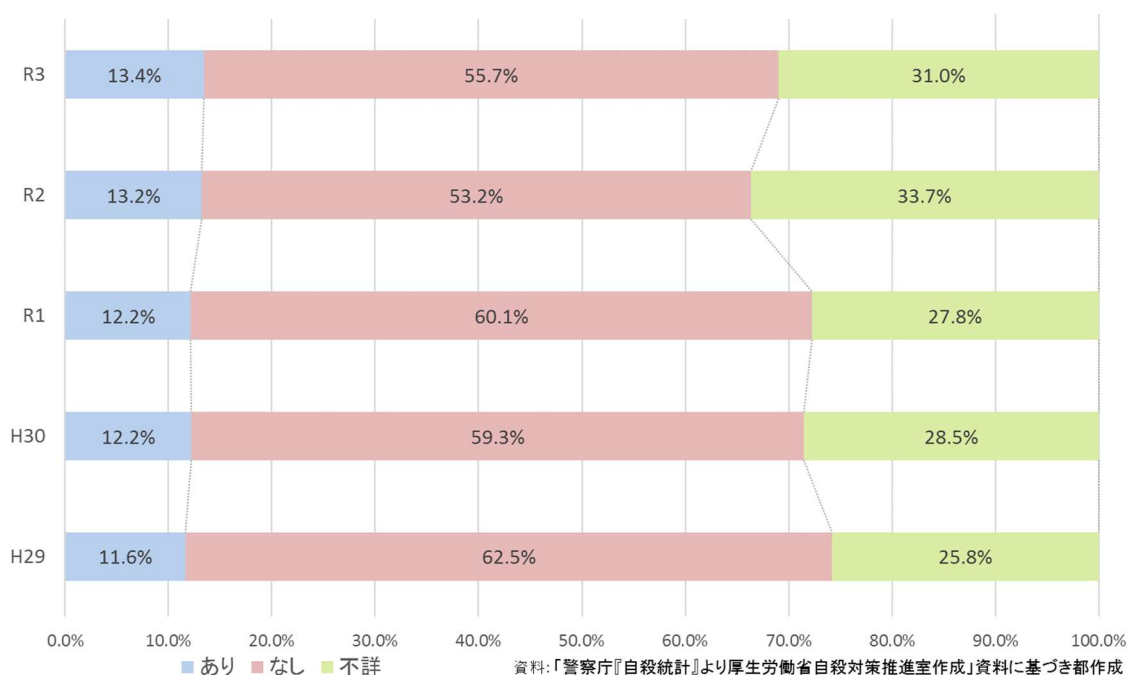


図 2 2 自殺者の自殺未遂歴の有無（東京都、女性）

